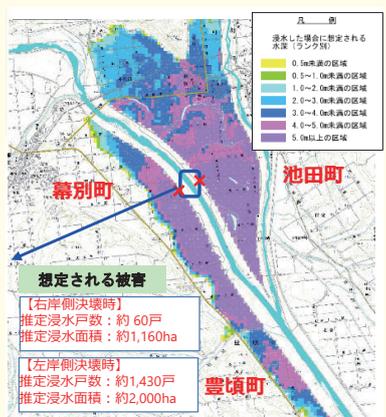
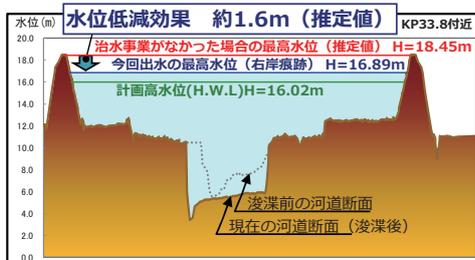


治水事業の効果（平成 28 年 8 月における治水事業効果の事例）

- 十勝川ではこれまで、ダム建設や築堤、引堤、新水路事業、浚渫など様々な治水対策を実施してきました。
- H28. 8 洪水は 4 観測所で計画高水位を上回り、12 観測所で最高水位を更新する既往最大の洪水でしたが、これまでの治水事業の効果により、堤防の越水を防ぎ浸水被害の拡大を抑制しました。
- 今後更に洪水被害を軽減し、安心・安全な社会基盤の形成と流域の発展に資するために治水事業を推進して参ります。

- H28. 8 洪水では、概ね 1.6m 程度水位を低減させ、堤防の越水を防止することができたと想定されます。仮に左岸側で決壊した場合は約 2,000ha、右岸側で決壊した場合は約 1,160ha が浸水したと想定されます。



治水対策

■引堤事業（木野引堤工事）
 音更町側の堤防を最大 130m 広げ、併せて十勝大橋の架替を実施

■堤防の保護対策
 急流河川である音更川及び札内川市街地の堤防保護対策

■新水路事業（千代田新水路）
 右岸高水敷に新水路を掘削。上流側には分流堰を設け、洪水時の流下能力を確保

■多目的ダムの建設
 十勝ダム、札内川ダム
 多目的ダム（十勝ダム）
 S59完成

■河道安定化対策
 水制工などの河道の安定化を実施

■統内新水路 (KP21 ~ KP38)
 洪水防御、低平湿地の河川水位低下、排水を促進 (昭和 12 年完成)

■浚渫
 昭和 28 年より浚渫や、河道掘削を実施

■丘陵堤
 十勝川及び利別川下流域では泥炭層が広く分布しているため、昭和 62 年より丘陵堤を整備

■内水対策
 排水機場の整備等による内水被害軽減対策を実施

育奈多排水機場 (H1完成)

